

限定
800部

小泉蒼軒日録刊行

江戸時代末期の越後を活写する、貴重な見聞録

新津市では、このたび江戸時代末期の越後の地理学者

小泉蒼軒（二七九七―一八七三年）の日録集を刊行す

る運びとなりました。蒼軒

の遺した

三百六十余冊の著述

の中から、日記に関わる部分と若干の記録を収録した

もので、今回が初の刊行となります。幕末から明治維新

にかけて時代の激動期に、「越後志」編集に情熱を傾けた

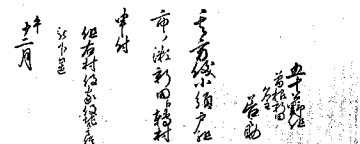
地理・歴史学者として、また郷土に生きるひとりの文化人として克明に綴られた

およそ半世紀にわたる日記集です。著者自身の押し絵や遺照など、絵図写真も豊富に収録

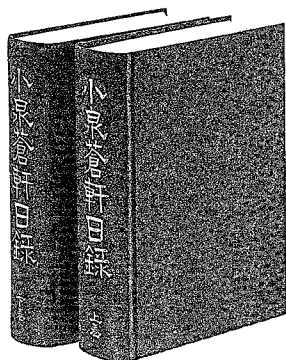
しました。当時の越後を知るうえで、貴重な資料となることと思います。



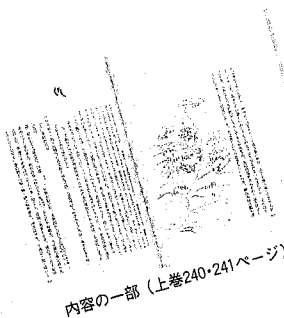
蒼軒文庫の黒額



安政5年 蒼軒市之瀬新田へ頼村申付書



小泉蒼軒（二七九七―一八七三年）
寛政九年、著名な地理学者小泉其明の長男として、新発田藩中へ儒組令町現
島岡市に生まれる。十五歳のときから父其明にたがって越後、佐渡國を
くまなく回り、父の越後地圖完成を助け、父の死後その意を継ぎ、組頭
や番主として新発田藩に仕えながら、越後の地理と歴史の基大成「越後志」の
完成に生涯をつぎやして取り組む。日記は、蒼軒の三十八歳から没するまでの
およそ四十一年間を断続的に記したもので、「越後志」編さんのための測量旅行を
はじめとする、幅広い活動があり、当時の越後、佐渡や日本の様子を、多様な
教養人としての蒼軒のなかに描き出した地理・歴史学のみならず、国学、民政、
測量学、治水、民俗など多方面に才能を発揮、多数の著述を残している。明治
六年、小発田・組市之瀬新田（現新津市）の自宅で死去。



内容の一部（上巻240-241ページ）

小泉蒼軒略年譜

西暦(精簡)	蒼軒に関するできごと	国内のできごと
一七九七	地理学者小泉其明の長男として 新発田藩之島組令町（現見附 市）に生まれる	一八〇〇 伊藤忠敬が蝦 夷島測量
一八一〇	この年から父其明の越後地圖作 成を手伝い越後各地を巡る	一八一五 外国船打込 い争
文化一〇 一八一七	父其明、越後全國を完成して出 版。しかし、数年後に幕府から 絶版を命じられる。理由は不明	一八一三 五侯爵 天保改革
文化一四 一八二七	新発田藩市之島組坂新田の本 役名主になる	一八二一 大政奉還
一八三七	新発田藩助社の松にちなみ 「蒼軒」の号を用いる	一八六八 戊辰戦争
一八四六 弘化三	五十公野領根新田の名主に転 村	一八七〇 明治三
一八四九 (嘉永二)	小発田藩市之瀬新田の名主に転 村	一八七三 明治六
一八五八 安政五	八月戦火切迫により家族と割野 村へ避難。十一月新津町へ転居 庄屋・本問復姓の口上巻を上げ	一八七一 明治四
一八六八 明治一〇	十月十九日市之瀬の家で死去 (七十七歳)	

《体裁》上下2巻（総ページ数約1700ページ）

《領布》平成6年3月1日（火）

《領布価格》11,000円

《領布場所》新津市役所、新津市図書館、荻川地区公民館、勤労青少年ホーム

《問い合わせ》新津市役所生涯学習課文化行政係 ☎0250-22-9667

◆領布のご案内